





## はじめに

---

初めまして、小さいモノが好きな秋山琴音です。  
小さいけれど、表情や動作が豊かでコミカルであったり、  
私たちのように朝の支度をして日常を送っていたり。  
簡素な見た目からは想像できない、細かな設定。世界観  
を知っていくことで、みるみる虜になっていく。  
それこそ、私が小さいモノに惹かれる理由だと思います。  
そういった世界観やこだわりを大事にできるデザイナー  
に、私はなりたいです。





# フカシギ姉弟のぬいぐるみ



キャラクターデザインからぬいぐるみ制作まで、全て行いました。

## [コンセプト]

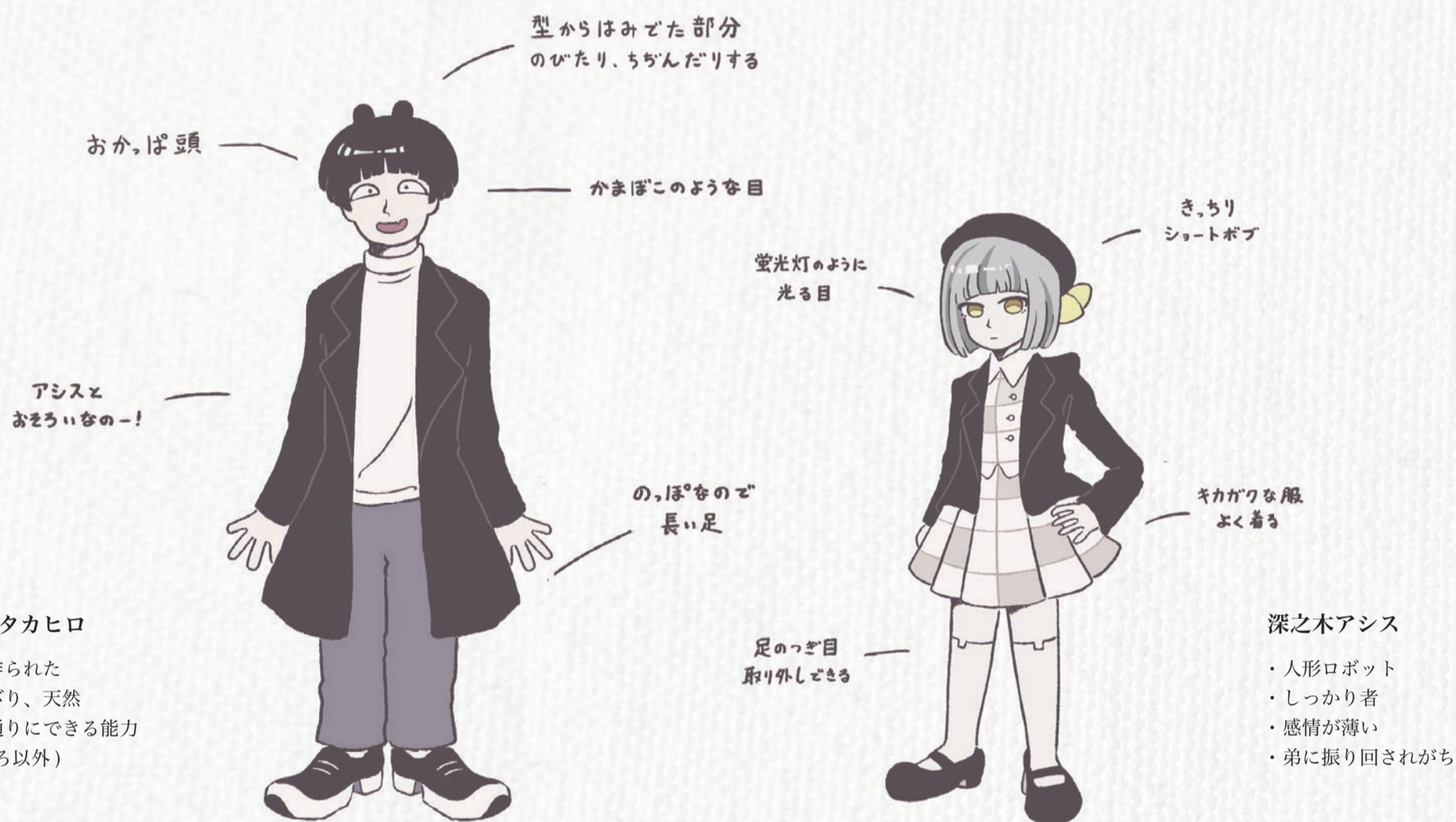
癒しを与えつつも、どこか怪しい謎を抱えている。いつかこの子達に利用されてしまうかもしれない。そんな世界観にすることで、可愛さだけではなく、奥深さを表現しました。

## [ターゲット]

16～20代前半の女性。小さいぬいぐるみを集めるのが好き。健気に働く様子を見て、元気を分けてもらおうとしている。

## [キャラ設定]

人間を利用しようと企む博士の元で生まれた深之木姉弟。クローン作りに手伝ってくれそうな人間を探している。アシスは任務に対して忠実だが、タカヒロは観光気分で過ごしている。そんなタカヒロに呆れつつも、アシスも人間との関わりやタカヒロの影響で、今まで抱いたことのなかった人間らしさに気づいていく。そんな姉弟が織りなす、ほのぼの世界征服。



[ぬいぐるみのラフ] タカヒロ 立つタイプ15cm / アシス 座るタイプ15cm



アシスの服と似た柄を用意できなかったので大きく変更。代わりに、タカヒロとお揃いの素材を取り入れる。











# POP制作

名前を覚えてもらうために、POPを作りました。



POP  
縦 70 mm / 横 105 mm

黒ベタでコントラストを出しました。

POP  
縦 68 mm / 横 110 mm

瞳に黄色の蛍光ペンを使用。  
目立たせる工夫をしました。





一学期のデザイナーズマーケットに出展した、オリジナルブランディングショップです。

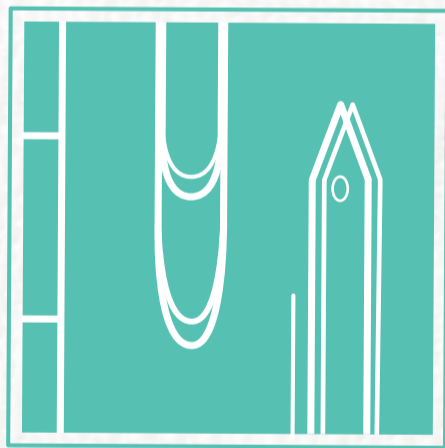
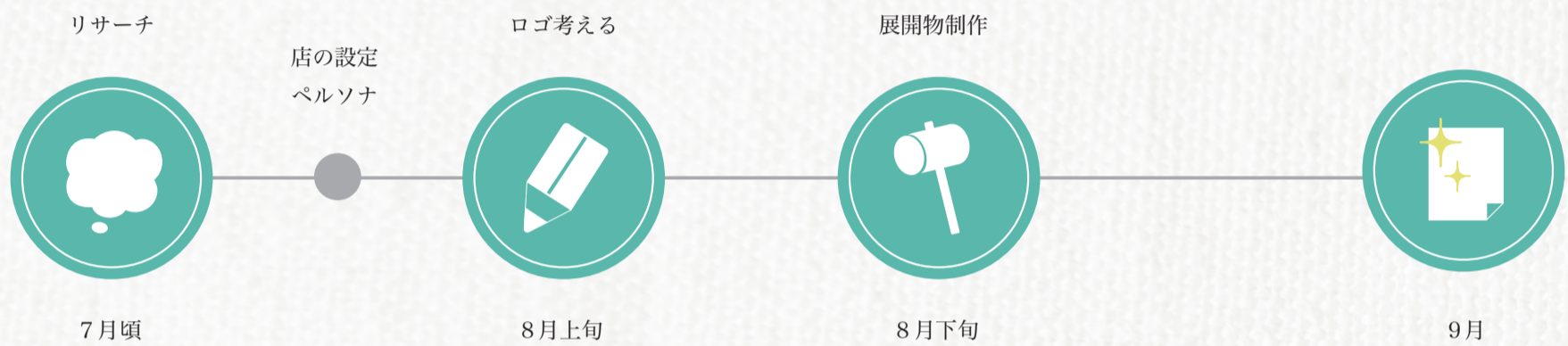
## [コンセプト]

日本の伝統文様をもっと身近な存在に、おしゃれに取り入れるための文房具店。  
文様の渋くて堅苦しいというイメージを払拭できるように、近代的な配色でパターンを制作しました。

## [ターゲット]

20～30代の女性。和風が好きな人。周囲とは一味違うものを持ち歩きたい。アイデンティティを大切に人。控えめだけど、大人っぽく見える文房具を使いたい人。

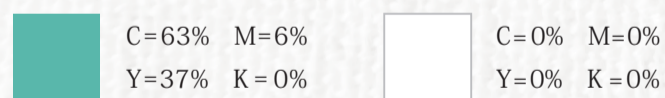
## [作業の流れ]



## [ロゴマーク]

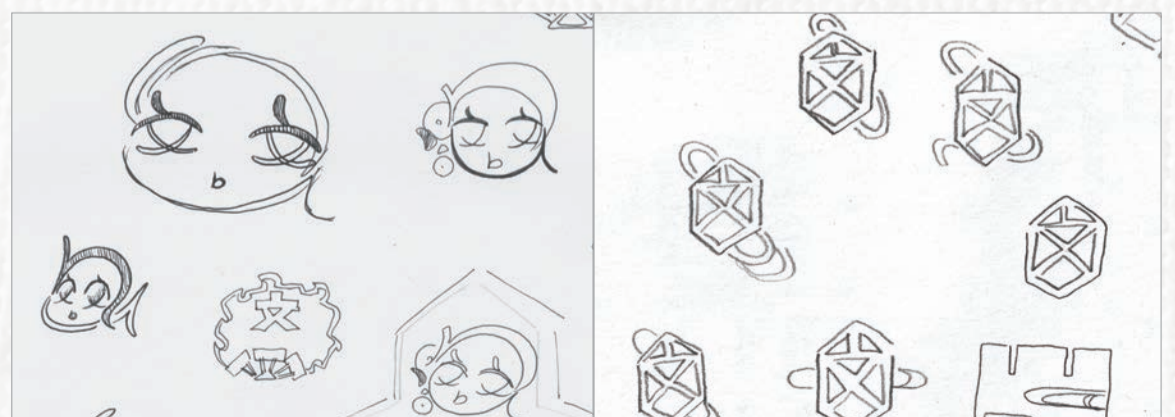
和綴じ製本を背景に、「流水紋」になぞらえたクリップ。そして万年筆を二重に配置することで「子持ち編」の要素も含めた。

メインカラーの青緑は、勉強や仕事などに落ち着いて取り組めるような優しい色合い。また、「流水紋」による水のイメージも含めている。



# 文宝館

## [ラフスケッチ]



店名を女の子の顔にする案

「文」を宝石に見立てる案



# 使用した文様



麻の葉

健やかな成長  
清潔感ある青系で  
まとめた



毘沙門亀甲

長寿、魔除け  
安全を与える緑  
紫を加えて神秘的に



七宝

円満、ご縁  
陽気さ、宝の輝き  
を表現



鹿の子

生命力、繁栄  
縁起の良い赤に  
紺でコントラスト

[出力したもの]





# 展開物

[ノート A5サイズ]

亀甲綴じ

麻の葉綴じ

四つ目綴じ

高貴綴じ





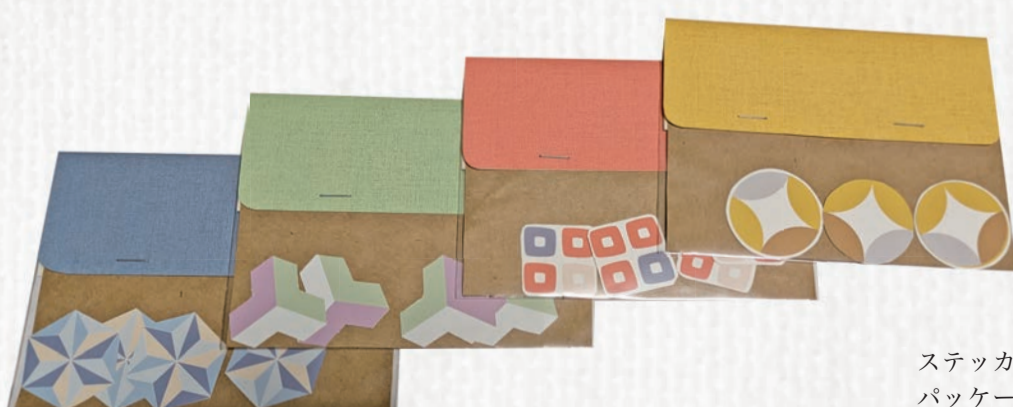


デザイナーズマーケットでの、展示の様子です。

ボールペン  
高さ 135mm



付箋  
縦 65mm / 横 100mm



ステッカー 約 30mm  
パッケージ 縦 80mm / 横 108mm





# 「草の花」という小説の ブックデザイン



## [本の内容]

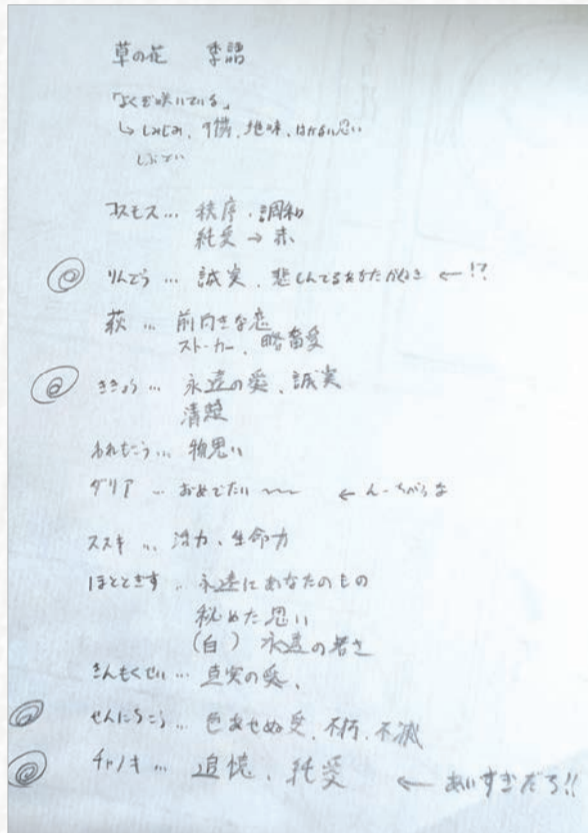
著者は福永武彦。1954年、新潮社より刊行。  
戦前が舞台。主人公である汐見茂思は、下級生の藤木忍に思いを寄せていた。汐見は真っ直ぐな恋愛感情を向けるが、藤木には受け入れられることはなく…。ひっそりと哀愁漂う、純愛物語。

## [コンセプト]

夜の海で二人きりになる場面があり、この本がどういう内容であるかが一目でわかりやすいと思い、中央に配置しました。

裏表紙の女性は藤木の妹で、汐見が遺したノートを読んでいる大事な場面です。読者がこの本を読み終えた時に、やっと理解してもらえるようなデザインにしました。

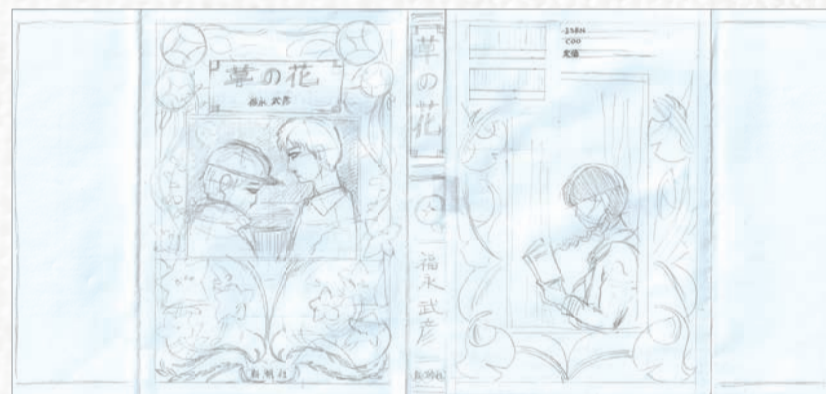
## [花の装飾について]



夏目漱石の本の装丁を多く手がけた橋口五葉に憧れ、花の装飾を描くことに初挑戦しました。

本の題名である「草の花」は、秋の季語。まずは秋に咲く花をリストアップ。そこから花言葉を調べて、本の内容に合う花を選抜しました。

桔梗と竜胆が紫なので、夜の海と似合うと思い、メインカラーにしました。



桔梗(ききょう)  
永遠の愛、誠実、清楚



竜胆(りんどう)  
誠実、  
悲しんでいる貴方が好き



茶ノ木(ちやのき)  
追憶、純愛

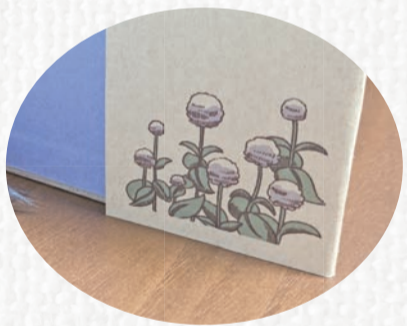


千日紅(せんいちこう)  
色褪せぬ愛、不朽、不滅



銀杏(いちじょう)  
鎮魂





ダミーは、ハードカバー

本のサイズ

縦 193mm / 横 135mm

帯のサイズ

縦 78mm / 横 135mm



# 展示会を紹介するための イラストエッセイ



弥生美術館で開催されていた展示会を元に、イラストエッセイを制作しました。

## [ブラッシュアップ前]



課題として提出したものは、情報が浅く、構図も単調で納得いってませんでした。なので改めてリサーチして作り直しました。

## [コンセプト]

大正から昭和初期の着物の魅力がもっと伝わるよう、時代背景も含めた内容にしました。歴史に詳しい人ではなくても、理解しやすいように取り扱う内容にも心がけました。

## [工夫した点]

既存の書体を使うと固い雰囲気になってしまったので、手書きの文字にしました。イラストエッセイ特有のゆるい文字を書くのには、かなり苦戦しました。着物の柄よりも手間をかけました。

## [作業の流れ] 34時間

再リサーチ  
展示会の写真を見なおす



4 時間

下書き  
線画を整える



14 時間

文字を書く



着物の柄  
全体の色塗り



12 時間

## [参考にした展示物]





# 銘仙の魅力

大正から昭和初期にかけて女学生の間で大流行した銘仙。  
現代の着物にはない斬新的な色柄が多い。

## 銘仙ブーム×就学率↑

就学率向上がブームを支えた。

明 昭  
女学校 193校 → 800校

進学率 5% → 15%

更に、化学染料の輸入で  
鮮やかさもUP!!



### 山ブドウと小鳥と 鳥籠文様の銘仙

旅に出かける女性を  
イメージしたコーディネート。  
銘仙の柄には、鳥籠と  
その外にいる小鳥。なんだか  
冒険が始まりそう…!



### 参考にしたもの

2023年9月30日～12月24日まで弥生美術館で開催されていた  
「大正の夢 秘密の銘仙ものがたり展」を、元に制作。

銘仙研究家の桐生正子氏のコレクションからえらばれた約40点が展示されていた。

## 伝統文様とおさらば!

人気モチーフは明治末期から大正にかけて  
短い期間で、動植物や幾何学などへと  
変化していった。1番多かったのはバラ。

2番目はワジャク。1セレクト



月光仮面

しまい



### 星に天使文様 女兒四つ身

昭和初期は女兒だけ  
ではなく、男児も着物の  
上からエプロンを付けてた。  
食べこぼしや泥がつかない  
ようにだそう。







友人のブログを紹介するためのLPのデザインを制作しました。

### [コンセプト]

ブログに登場するキャラクターが人魚でした。また、その友人を深く追求していくことから、深海をモチーフにしました。

青い髪の人魚は、このLPのために私が考えたキャラクターです。



こっそり、友人の顔を入れました▶



[アナログ]



B6サイズ 縦 128mm / 横 182mm

[デジタル]



B6サイズ 縦 128mm / 横 182mm



## おわりに

---

ポートフォリオをご覧頂きありがとうございました。  
私は自分の行動で喜ばせたり、笑わせたりすることが  
好きです。更に何ができるかを考えた時に、  
画力も生かして、紙や画面上といった平面以外の表現に  
してみることに最適な方法だと気づきました。

これからは今までの作品をより良く見せて、  
「欲しいな」と思わせる広告や展開物にも  
力を入れていきたいと思っています。









# プロフィール



東京デザイナー・アカデミー 2年生  
グラフィックデザイン学科 グラフィックデザイン専攻  
イラストデザインコース

## 秋山 琴音 (あきやま ことね)

2004年10月31日生まれ。千葉県出身。

幼少期から絵を描くことが好きだった。中学時代に書き溜めたスケッチブックは20冊以上。最近ではSNSを始め、仲間と親睦を深めながらファンアートを活発的に投稿している。供給が少ないジャンルを、自分の創作で補うことに強い使命を感じている。

趣味は映画鑑賞、美術館や博物館巡り、お菓子作り。

